

＜愛教大活性化部門＞

聴覚障害児の夢の学校プロジェクト

―共に学び合う集団活動の取り組み―

代表者 山田 海友（特別支援学校教員養成課程・2年）他 学生9名

1. 活動概要

（1）音楽活動

「ボディパーカッションを楽しもう」（小学生向けの企画）

聴覚障害児は聴こえない・聴こえにくい
ため、音楽があまり好きでない他、音楽
のものに関心がない子どもが多い。ボディ
パーカッションは体の振動によりリズム
を感じ、聴覚障害児でも理解して、リズム
や振動を楽しむことができる。

本企画を行うにあたり、講師に山田俊之
先生（九州大谷短期大学・教授；内諾済）
を招き、ワークショップを開いた。子ども・
保護者・学生をグループに分け、ボディパ
ーカッションの発表内容について話し合
い、練習を重ねた。最後にグループ発表を
行ったが、話し合い活動の中で参加者同士
の交流が深めることができた。

（2）キャリア教育活動

「夢を広げよう」（中学生・高校生向けの
企画）

聴覚障害のある中学生・高校生は、社会
で活躍する聴覚障害成人とのかかわりが
少なく、進路について考える際に同じ境遇
の社会人から助言を得ることが困難という
課題がある。そこで聞こえない、聞こえに
くい社会人を講師に招き、子ども時代、青
年期に努力したこと、現在の仕事の話など
の経験を聞き、子どもたちが将来について
考える機会を設けたいと考えた。また、昨
年はできなかった、聴覚障害のある子ども
同士で今後の進路や将来の夢について語
り合える時間も作りたいと考えた。本来で
あれば、対面での企画を行い、夢を語り合
う交流の場にしたいところであったが、新

型コロナウイルス感染症予防の観点から
昨年度同様 zoom を使用してのオンライン
企画で行った。

講師は、豊田市議会議員の中島竜二様、
元岐阜ろう劇団の平井知加子様をお招き
した。少人数ではあったが講師も交えなが
ら子どもたちの話を聞くことができた。

2. 実施状況

【2021年6月】

- ・企画立案
- ・小学生企画「ボディパーカッションを楽しもう」の講師山田俊之先生へ依頼・打ち合わせ

【7月】

- ・山田先生による学生スタッフへのボディパーカッションの指導・練習（毎週）

【8月】

- ・学生スタッフのボディパーカッション練習（週1回・合計4回）
- ・「ボディパーカッションを楽しもう」講師の山田先生との第1回目の zoom 会議を行った。

【9月】

- ・小学生企画「ボディパーカッションを楽しもう」の参加案内を作成し、愛知県・岐阜県立豊学校、愛知県内の難聴学級に郵送し呼びかけた。

【10月】

- ・ボディパーカッション、手話の練習
- ・小学生企画「ボディパーカッションを楽しもう」

しもう」講師の山田先生との第2回目 の zoom 会議を行った。

・あいち聴覚障害者センターに連絡し、手話通訳者の派遣を依頼した。

【11月】

・「ボディパーカッションを楽しもう」講師の山田先生との第3回目の zoom 会議を行った。その後、企画のオープニングでの学生スタッフのボディパーカッション活動の演舞の打ち合わせと練習を行った。

・11月23日(祝)小学生企画「ボディパーカッションを楽しもう」を開催した。



写真①：子ども同士で自己紹介をする様子



写真②：子どもたちと手話を使って話す本学生



写真③：各グループのパートを発表する様子

・中高生企画「夢を広げよう」の講師について、STARBUCKS コーヒージャパン・ノア国立店の大塚絵梨様に講演依頼(11月28日)をしたが承諾を得られなかった。その後、(豊田市議会議員) 中島竜二様、(元

岐阜ろう劇団) 平井知加子様に講演依頼をした。

・中高生企画「夢を広げよう」の参加を愛知県・岐阜県立聾学校、愛知県内の難聴学級に案内を送付し呼び掛けた。

【12月】

・中高生企画「夢を広げよう」の講師の方々と zoom または対面での概要説明と打ち合わせを行った。また、あいち聴覚障害者センターに連絡し、手話通訳者、パソコン要約筆記者の派遣を依頼した

【2022年1月】

・1月30日(日)中高生企画「夢を広げよう」を開催した。

・中高生企画「夢を広げよう」の反省会議を行った。事後報告書を作成し、参加者に郵送した。



写真①：中高生企画「夢を広げよう」の様子



写真②：中高生企画「夢を広げよう」画面

3. 成果

(1)小学生企画

「ボディパーカッションを楽しもう」

2021年11月23日(祝)に小学生企画「ボディパーカッションを楽しもう」を行った。準備では、運営スタッフ同士が何度

も zoom 企画会議を開催した。

参加者は、聴覚障害のある中高生とその保護者だけでなく、聾学校や難聴学級の先生方や愛知教育大学の学生も参加し、合計で 43 名（小学生 12 名・高校生 1 名・大学生 20 名・保護者 5 名・教員 5 名）の参加となった。また、子どもたちにボディパーカッションを楽しんでもらうため、学生自ら山田先生にボディパーカッションの指導を受けた。学生スタッフは、体を使って音楽を奏でる楽しさ、大勢の仲間の動きに合わせることの楽しさ、集団で一体となって新しい音楽を作り出す楽しさを体験することができた。遠隔での指導は初の試みであると山田先生も仰っていた。

本企画にて、聴覚障害児がグループで話し合いを重ねながら交流を深め、聴覚障害のある人もない人もみんなが音楽を楽しめるような活動にするために、前半は子ども同士の交流、後半は山田先生によるワークショップという二部構成で行った。

前半の子ども同士の交流では、子どもたちが学校や名前、好きなことについて話したり、「並び順ゲーム」などのレクリエーションを行ったりした。様々な聞こえの子どもたちがコミュニケーションを取ることが出来るように学生が間に入り手話通訳などを行った。

後半のワークショップでは、学生が「紅蓮華」「トレパーク」を披露し、その後「手拍子の花束」で子どもたちと学生、保護者が混ざりながらグループに分かれ練習を行った。手拍子や指でカウントを取ったり、体に触れてリズムを教え合ったりする様子が見られた。

企画終了後のアンケートでは「カラダを動かすこと自体が楽しかった」「聴覚障害がある子のためのワークショップはなかなか見つけられなかったの、これからも機会があれば参加したい」などといった記述があった。

このような学びの成果は、本企画の準備にて丁寧に指導をいただいた山田先生のおかげである。

（2）中高生企画「夢を広げよう」

2022 年 1 月 30 日（日）に愛知教育大学第一共通棟 303 教室で開催された中高生企画「夢を広げよう」では、昨年同様新型コロナウイルス感染予防のため、zoom を使用したオンラインでの講演を中心とした企画を開催することとなった。オンラインでの開催であるため参加対象者を拡大し、聴覚障害のある中高生とその保護者だけでなく、聾学校や難聴学級の先生方や愛知教育大学の学生や他大学の学生も参加し、合計で 39 名（中学生 2 名・高校生 2 名・大学生 25 名・保護者 5 名・教員 5 名）の参加となった。

企画終了後のアンケートでは「コロナ禍のため、勉強会等も行われず、不安な中で難聴の子どもと向き合ってきました。お話を伺うことで、視界が広がった感じがしました。お二人の力強い人生の歩みを伺って、子どもが今後やってみたいことは率先して応援していきたいと思いました。発信することの大切さも伝えていきたいと思いました」「平井さんと中島さんのお話を聞き、将来のことを深く考えることが出来ました。特に、『私は耳が聞こえないから無理、と思わないことが大事』という言葉にすごく刺激を受けました。これから、聞こえる人ともたくさんの関わりを持って視野を広げて行きたいです」といったような記述等があった。

以上より、本企画は、参加者が聴覚障害者のキャリア形成について理解を深める機会となったと言える。

運営した学生スタッフとしては、zoom を使用することに加え、聴覚障害のある人が話し手の言語情報を理解し、安心して参加できるような情報保障を行った。企画の準備段階で、手話通訳者やパソコン要約筆記者の配置の方法や画面への映し方などを試行錯誤してシミュレーションを重ねた。企画当日の進行では、司会や代表の学生スタッフが zoom カメラの前で話をする際には、必ず音声言語と手話を併用することとした。また、話題提供者の講師が一方的に話をするだけの形式にならないように、質疑応答の時間を長めに取り、参加

者の声をできるだけ反映するように努めた。聴覚障害のある中高生にとっても、自分の進路や職業の将来について考える良い機会になったと考える。また、聾学校や難聴学級の先生方や、私たち学生にとっても、聴覚障害のある社会人の職業観、聴覚障害者としてのコミュニケーションの心構えや工夫等の話を聞くことで、聴覚障害児のキャリア教育の指導の在り方について考える機会を持つことができた。

4. 今後の展望

様々なコミュニケーション方法を活用する聴覚障害者全員が内容を理解し、楽しむことができることは聴覚障害児教育における課題である。今回の企画でコミュニケーション手段や交流の方法を工夫することによって、聴覚障害のある児童生徒の体験や交流の幅を広げ、可能性を広げることができるのではないかと感じた。そのため、今回の企画はその課題を解決する一つの糸口となったのではないだろうか。また、聴覚障害がある子どもが、ロールモデルとなる聴覚障害のある成人の話を聞く機会は非常に重要となる。今回の企画をこの場限りのものにするのではなく、学生スタッフは、今後も継続していくこと（または後輩に引継ぐこと）で、聴覚障害児の夢を実現するために、子どもたちの未来の可能性を広げる支援を進めていきたい。

5. 決算

予算：383,000 円、残額：49,885 円

費目	支出額
○ 備品	
スティックのり	2,720 円
ホッチキス	156 円
小 計	2,876 円
○ 消耗品	
84 円切手	29,988 円
長方 3 号封筒	2,002 円
ガムテープ	1,815 円
コピー用紙	4,483 円
レターパック	44,039 円
小 計	82,327 円

○ 旅費	
講師依頼出張（1 名） 「ボディパーカッション」 （山田先生）	51,060 円
講師交通費（1 名） 「夢を広げよう」（中島様・平井様）	3,700 円
講師依頼の旅費（1 名） 「スターバックスコーヒー・ノノア国立店の出張」 （11/28・岩田吉生）	25,040 円
小 計	79,800 円
○ 謝金	
「ボディパーカッションを楽しもう」講演（1 名）	30,000 円
「夢を広げよう」講演（2 名）	40,000 円
手話通訳士（11 月 23 日分）	23,052 円
手話通訳士（1 月 31 日分）	29,850 円
要約筆記（3 名）	45,250 円
小 計	168,152 円
○ その他	
	0 円
小 計	0 円
合 計	333,115 円

6. メンバー

番号	学年	氏名	所属
1	2	山田海友	特別支援
2	2	伊藤理沙子	特別支援
3	2	遠藤朱夏	特別支援
4	2	太田桜子	特別支援
5	2	柴田剛	特別支援
6	2	杉浦佑羽	特別支援
7	2	能登真美	特別支援
8	2	三輪朱音	特別支援
9	2	吉田美世	特別支援
10	教員	大塚とよみ	特別支援
11	教員	岩田吉生	特別支援